

【ポスター発表】

地域包括支援センターの専門職を対象とした
認知症専門医療機関との連携とその関連要因

○ 日本福祉大学 杉山 京 (8498)

倉本 亜優未 (岡山県立大学大学院・9255), 竹本 与志人 (岡山県立大学・4927)

キーワード: 地域包括支援センター, 認知症, 連携

1. 研究目的

わが国における認知症関連施策では、認知症の早期診断・早期対応を目指して保健医療福祉に携わる専門職が有機的に連携を図り、援助していくことが求められている。併せて「専門職間連携」のシステムが構築されつつあり、地域包括支援センター（以下、包括センター）がその中核機関として機能することが期待されている。このような状況の中、包括センターの専門職は鑑別診断の実現に向け、認知症が疑われる高齢者（以下、認知症者）や家族に対する直接援助とともに、認知症専門医のいる医療機関につなぐといった間接援助を担うことが期待されている。しかし杉山ら（2015）によると、鑑別診断に向けた認知症専門医のいる医療機関との連携を適切に実践していた包括センターの専門職は約5割であったと報告している。包括センターは地域の見守りを行っており、代替者のない重要な役割を担う機関である。そのため、認知症者の早期診断・早期対応を促進するためには、包括センターに対して政策的な役割実践に留まらず、医療機関との連携の促進要因を明らかにし、実態に即した研修や環境づくりといった介護予防対策を講じることが必要である。

そこで本研究では、包括センターの専門職による認知症者の鑑別診断に向けた「認知症専門医のいる医療機関」との連携実践とその関連要因を明らかにすることとした。

2. 研究の視点および方法

本研究は2017年7月時点に全国47都道府県内に設置されていた包括センター5,036か所に勤務する専門職を対象に、インターネットを活用した無記名自記式のアンケート調査を実施した。各包括センター長宛に「本研究の趣旨等を記した文書」などを送付し、センター長を通して各調査対象者への調査協力を求めた。調査期間は2017年10月から12月の約2か月間であり、属性、認知症者の受診に向けた認知症専門医のいる医療機関との連携実践状況（以下、専門医療機関との連携）10項目、認知症に関する知識量、勤務する包括センター周辺状況（認知症専門医のいる医療機関までの距離、受診待機日数、受診調整機能の有無、かかりつけ医の紹介状の要否等）などの項目について回答を求めた。統計解析には、当該項目に欠損値のないデータを用いた。解析は第一に「専門医療機関との連携」の項目について妥当性および信頼性の検討を行った。構成概念妥当性の検討には構造方程式モデリング（推定法：WLSMV）を用いた検証的因子分析を行い、信頼性は α 信頼性係数により検討した。第二に、「専門医療機関との連携」の項目を用い、自己組織化マッピング

グによる潜在ランク理論を行った。第三に、潜在ランク理論によって推定された潜在ランクを従属変数、認知症に関する知識量、勤務する包括センター周辺状況などを独立変数としたモデルを設定し、多項ロジスティック回帰分析を用いて両要因の関連性を検討した。すべての解析における有意性は5%有意水準とした。以上の解析には、統計ソフト「IBM SPSS 24J for Windows」「Mplus version 7.4」「Exametrika version 5.3」を用いた。

3. 倫理的配慮

調査対象者ならびに調査対象者が勤務する包括センターのセンター長に対して、調査の趣旨、調査協力への自由意思（任意）の保障、匿名性の保持等について書面にて説明を行った。またアンケート専用のホームページ冒頭に、本研究協力への可否に関する確認項目を設け、「同意」の回答をもって本研究への同意を得たものとした。なお、本研究は2017年9月26日に岡山県立大学倫理審査委員会の審査・承認を得て実施した(受付番号:17-51)。

4. 研究結果

回答は1,200人から得られ、統計解析には当該項目に欠損値を有さない349人のデータ（回答者の29.1%）を用いた。第一に「専門医療機関との連携」10項目について1因子モデルを構築し、検証的因子分析を行ったところ、 $CF1=0.998$ 、 $RMSEA=0.097$ と統計学的許容水準を満たしていた。また α 信頼性係数は、0.975と高い信頼性を有していた。第二に潜在ランク理論による分析を行った結果、潜在ランク数決定の指標であるBICから、5ランクモデルが最適と判断した。またItem Reference Profile（以下、IRP）を参考に、各潜在ランクの特徴を確認した。第三に、Rank Membership Profileを参考に所属確率が最も高いランクに分析対象者を分類し、最良な「専門医療機関との連携」の特徴を呈した潜在ランク（Rank5）を基準に、多項ロジスティック回帰分析を用いて各潜在ランク（Rank1～4）を規定する要因を検討した。その結果、「認知症に関する知識量」はRank1（ $p<0.01$ ）、Rank2（ $p<0.05$ ）、「認知症専門医のいる医療機関までの距離」はRank1（ $p<0.05$ ）、Rank3（ $p<0.05$ ）、「かかりつけ医の紹介状の要否」はRank2（ $p<0.05$ ）、「受診調整機能の有無」はRank1（ $p<0.001$ ）、Rank3（ $p<0.05$ ）、Rank4（ $p<0.01$ ）との間に有意な関連を示した。

5. 考察

潜在ランク理論による分析の結果、「専門医療機関との連携」に関して包括センターの専門職は5つの段階に類型化された。またRank Membership DistributionおよびIRPより、「専門医療機関との連携」に関するすべての項目について、おおむね「連携している」という包括センターの専門職は約4割に留まっていた。そして、相対的に「専門医療機関との連携」が低値であったRank1～2に「認知症に関する知識量」が、Rank3～4には「受診調整機能の有無」が関連を示したことから、各包括センターの専門職による連携実践の到達度を踏まえ、「研修の実施」ならびに「医療機関との関係づくり」を適宜組み合わせて行っていくことが重要であることが示唆された。

※本研究はJSPS科研費15J09472の助成を受けて実施した研究成果の一部である。